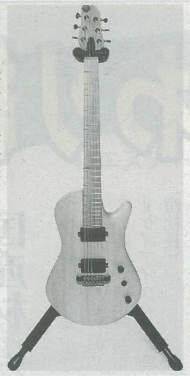
能登ヒバ楽器プロジェクト始動

音楽に乗せて地域材を訴求

フルタニランバー

フルタニランバー（石川県金沢市、古谷隆明社長）は、能登ヒバを使った楽器プロジェクト事業「ATENOTE（アテノオト）」を始動させた。同プロジェクトは、石川県能登地方に自生する能登ヒバを使用した楽器事業だ。

同プロジェクトは、フルタニランバーが総合窓口となって楽器メーカーへ能登ヒバ材を提案し、賛同したメーカーが商品化する。同社と各楽器メーカーが協力し、楽器材として能登ヒバの新たな価値創出に取り組む。



能登ヒバの木肌を感じられるエレキギター

音が響きやすいとされる性質を検証し、抗菌やアロマ効果とは異なる能登ヒバの用途を生み出すほか、天然高級銘木に替わる楽器材としての地位確立を目指す。また、一般消費者に向けた地域材利用意識の喚起や、能登ヒバ楽器を通じた環境問題への取り組みも目的にしている。

能登ヒバの魅力訴求を考えた古谷社長が、自身も趣味でバンド活動を行う音楽への強い思い入れから、「生活に身近な楽器を能登ヒバで作れないだろうか」と発案したことがプロジェクトのきっかけ。2019年秋に地元企業と連携して能登ヒバギターの試作を開始し、20年9月に石川県産業創出支援機構のチャレンジ支援ファンド事業に採択されたことで、本格的に事業化へ動き出していた。

今夏には、エレキベースとフルドラムセットが完成予定、秋には琴や三味線の和楽器と、ピアノが完成する見通しだ。その後も、多様な楽器の制作を計画している。

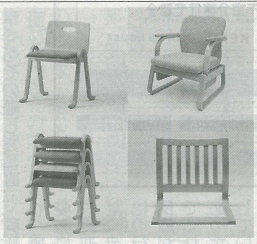
プロジェクト名は、能登ヒバの別名「ATE（アテ）」と、音楽用語で音調を意味する「NOTE（ノオト）」を組み合わせた。NOTE（ノオト）は、「能登」とも通じている。

国産木製いす「トヨモク」取扱い開始

病院、介護現場向けに拡販

タカノ

タカノ（長野県上伊那郡、鷹野準社長）は1日、ヘルスケア部門の顧客向けに、豊橋木工（愛知県豊橋市、近藤泰一郎社長）の国産木製いす「トヨモク」ブランド商品の取り扱いを開始した。病院や福祉施設、在宅介護での需要に焦点を合わせている。



トヨモク・ブランドの木製いす（一部）

トヨモク・ブランドの製品は、設計から木取り、加工、塗装、仕上げまですべて自社内で一貫生産しており、特に木材の単板を複層化して熱圧接着する成型合板技術を活用することで美しい曲線を実現している。

タカノでは、一般的な福祉用具を上回るデザイン性と機能性を持つ成型合板家具の同ブランド製品（いす）を販売ラインアップに加え、病院や福祉施設などへ供給することで高齢者の生活を支援していく。

取り扱い製品は、利用環境に合わせて高さが自由に調整できる低いす「おげんき座」や、スタッキングできるスツール「コリーナ」、和の空間にマッチする座いす「木曽」など。初年度は230台の販売を目指していく。

一枚板のネット販売が好調

売れ筋は杉幅広材

宇敷木材工業

宇敷木材工業（群馬県沼田市、宇敷慶一郎社長）は、一枚板のインターネット販売が軌道に乗っている。

以前はホームページにお金を掛けてSEO引先への細やかな心配りや笑顔などもトップダウンではなく、社員が感じ取って実践しているという。佐々木社長も、楽しく働ける会社づくりで社員に応えようとしている。

今後も強みである2次加工を生かし造作材の取り扱いを伸ばすことなどに意欲的だ。鹿児島県外にも自社を知ってもらいたい。「ずっと思い続けないとできない。何事も絶対に」。そう言うと、青年社長は笑顔を見せた。

▽青空木材

山町2308―1。電話099・204・0171。

展示会でも「一枚板」が人気

一枚板の写真には、樹種や寸法のほか重量も記載している。字敷社長は「一枚板は重量が100キロくらいになるものも多く、運送業者も2人対応で運ぶので運賃が掛かる。購入希望者には、インターネットで見ても分からない欠点があるかもしれないから、購入する際は、その点は理解してもらっている」という。

実際には、何度も来店してもらい購入に至るケースもある。売れ筋は、杉の場合は5万円以下、広葉樹は5万～15万円くらい。販売量の3割は杉、残りが広葉樹になる。広葉樹ではウォールナットやウエンジなど黒っぽい材が人気。白系ではタモ。意外にケヤキやトチは人気がない。

テーブルとして使う場合はソーシャルディスタンスを取るためにも幅800ミリ以上は欲しいという。

売れ筋の板をいかに仕入れていくかが課題だ。

加工は行っていないので、購入者が加工屋を探したり、工務店が施主に頼まれて購入しているケースもあると見ている。

会社探訪

「＃爽やか届けます」

青空木材（鹿児島）

創業12年目の販売店

「爽やか届けます」。青空木材（鹿児島市、佐々木進社長）は、自社のインスタグラムで木目が奇麗なツガ材など仕事にまつわる風景から日常の一コマまで、見映えする写真にその一言を添えて投稿を続けている。2010年創業の木材販売店で、加工部門を新たに設けるなど事業を広げてきた。現在42歳の佐々木社長にこれまでの足跡と今後について尋ねた。

青空木材はKD、グ広く扱う。製品取扱量リンの構造材や羽柄は年間2000立方ミリ材、板類、造作材など規模で、取引先工務店からの紹介などを通して鹿児島県内で顧客を増やしてきた。

佐々木　社長

佐々木社長は鹿児島の出身。20歳ごろに何かで会社を興そうと志し、布団の訪問販売や運送業などを経験しプレカット工場から業界に入った。その後、転職を経て独立した。

木材業は家業でもなく、廃業する店の方が多い時代だ。佐々木社長の挑戦は珍しく、「馬鹿じゃないか」と言われることもあった。市場が製品を売ってくれずにホームセンターからタルキなどを仕入れて売る日もあった。

ただ買う力の重要性を学んだことで、市場や製材所などとの信頼関係構築に努めた。今では「買う力がしっかり付いた」（佐々木社長）。ウッドショックの現在でも、それは生かされている。

15年からは、外注していた木材の2次加工を内製化させた。東開町の事業所（加工場）には8軸モルダーや超仕上げ機などをそろえ、精度と超仕上げにこだわる。事業所はAozora Factoryとしてインスタグラムに投稿するなどしながらブランディングを図っている。創業時、資材置き場などとして使っていた鹿児島市山田の土地は、大工が手刻みをする場所として残っている。

周りから「仕事は大変でしょ」と聞かれることもあるが「だから面白い」と答える。考え方次第で物事は変わり仕事も互いに気持ちの良い方がいい。インスタグラムの「＃爽やか届けます」にもその思いが込められている。

会社の9人のスタッフは佐々木社長にとって「僕の思いを形にしてくれる存在」だ。取

メモ　＝鹿児島市中

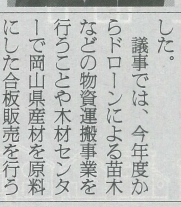
総会

新規に針合板販売やドローン運搬

岡山県森連

岡山県森林組合連合会（小野泰弘会長）は6月30日、通常総会を開き、今年度の事業計画などの議案を承認した。

小野会長は「2050年CO2排出ゼロの目標達成に森林・林業や木材業が果たす役割は大きい。利用期を迎える人工林を循環利用し、林業の成長産業化と地方創生実現のため、県森連は3カ所の共販所を通じた国産材の安定供給と、皆伐再造林促進、省力化林業の推進、現場技術者の育成・確保を行う。懸案だった新事務所も県産材を使って建設した。森林所有者への利益還元第一で努力していく」とあいさつした。



「山への還元を第一に、組合員の支援に徹する」と話す小野会長

議事では、今年度からドローンによる苗木などの物資運搬事業を行うことや木材センターで岡山県産材を原料にした合板販売を行うこと、備前市内に約2000平方ミリの中間土場を整備し、おかやまの森整備公社から搬出した原木を整木して7月から販売するなどの事業計画を承認した。

また、3月末に木材センター敷地内に完成した新事務所での業務を7月27日から開始することを表明した。

当日は永年在職役員と永年勤続職員、同作業班長・班員、系統利用優秀森林組合、同奨励組合を表彰。コロナ禍のため会場での表彰はせず、表彰者を読み上げた。

まつもと空港に木製看板

農林中金

農林中央金庫は、長野県森林組合連合会と連携し、信州まつもと空港（長野県松本市）に長野県産桧を用いた空港看板を寄贈した。6月24日に同空港内で寄贈式を執り行った。

空港看板は入り口に設置され、長野県の空の玄関口として多くの利用者の目に触れるもの。農林中金関東業務部によると、「県民の方々だけでなく、県外の方にも木のぬくもりに触れてもらいたい」との目的で設置が実現した。

寄贈された桧看板

松本空港管理事務所の須山昌明所長は「看板は空港の車道入り口真正面に設置されており、多くの方々の目に留まる看板となった。木の色が非常に引き立っており、まつもとの地に大変ふさわしい看板だ」とあいさつ。空港シンボルとして愛される看板になると続けた。

なお、農林中央金庫は長野県内での国産材利用拡大活動としては、木曽町への木製ごみステーション寄贈や、長野県立大学への木製パーティション寄贈、各種木育活動、ワークショップなどを展開してきた。